

(11) 沖 縄



沖縄地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 観光は引き続き増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況の中、改善の動きに足踏みがみられる。

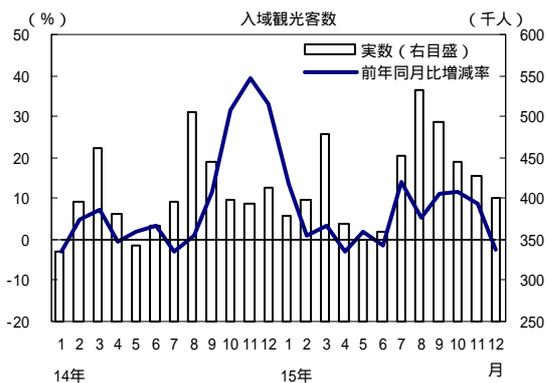
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 11 月）	今回（平成 16 年 2 月）	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている	依然として厳しい状況の中、改善の動きに足踏みがみられる	

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は引き続き増加している。

入域観光客数は、10、11月、海外旅行からの振替、修学旅行の増加、大型コンベンションの開催等により前年を上回り、月ごとの過去最高を記録した。12月は、海外旅行の回復や旅行商品の価格の高い年末が敬遠されたことから前年を下回ったものの、水準としては、昨年に次ぐ過去2番目の高水準となった。また、10 - 12月期における主要ホテルの客室稼働率については、那覇市内のホテル、リゾートホテルとも前年を上回り、高水準で推移している。

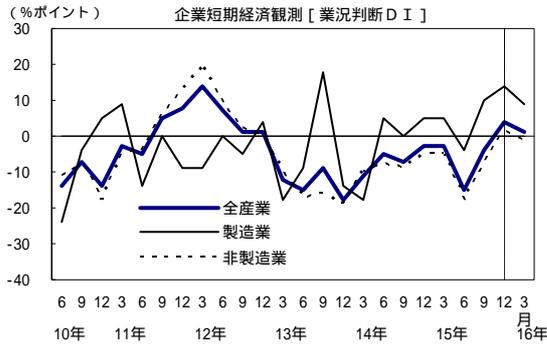


入域観光客数の動向

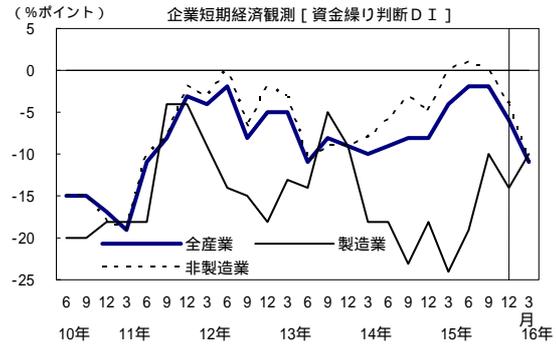
	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
入域観光客数(千人)	1,257	1,077	1,476	1,275
前年同期比増減率(%)	5.4	1.2	9.6	5.7

(備考) 入域観光客数は沖縄県観光リゾート局調べ。

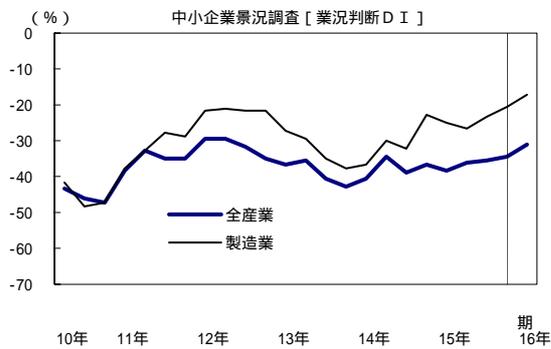
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。
 九州地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「売りの問い合わせは平常とあまり変わらないが、買いの問い合わせは少なくなっている (不動産業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

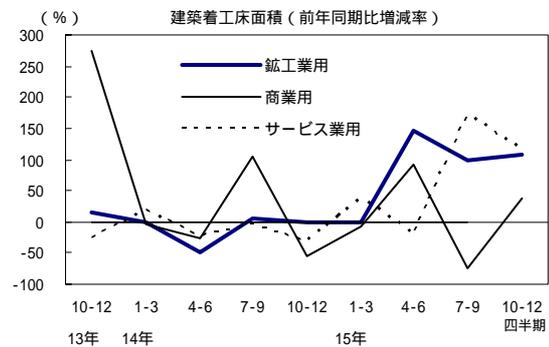
(3) 15年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	12.9	2.5 (0.2)
製造業	35.1	63.1 (9.0)
非製造業	19.2	7.2 (1.2)

(備考) () は前回 (9月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額

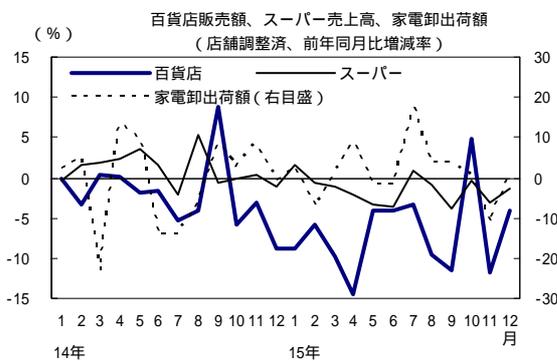
百貨店は、10月は大型スーパーの出店の影響が一巡したことや一部店舗の改装効果等により前年を上回った。11月は、気温が高かったため冬物衣料が振るわなかったことや前年のプロ野球優勝セールの影響により前年を下回った。12月は、各種特売セールは好調であったものの、上旬に気温が高かったことから衣料品が振るわず、前年を下回った。

スーパーは、大型店の新規出店の影響や、暖冬の影響で衣料品が不振であったことなどから前年を下回った。なお、全店ベースでは、前年を上回っている。

家電は、夏の猛暑によるエアコン需要の反動減やテレビの売行きが鈍かったことから前年を下回った。

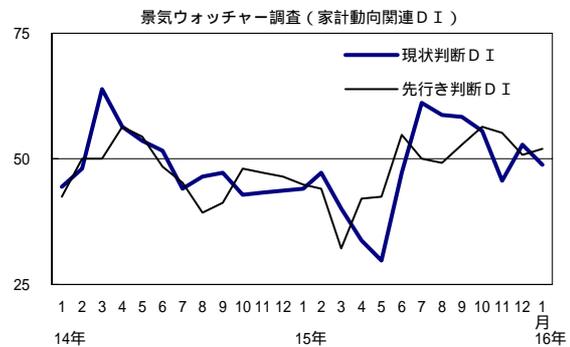
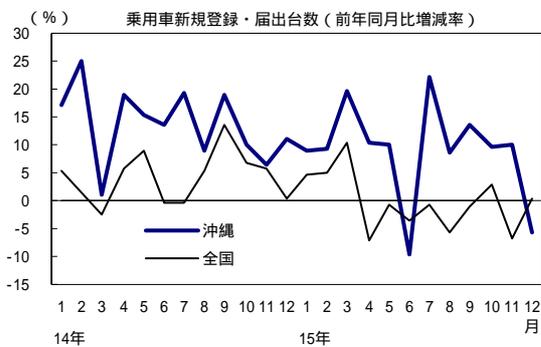
景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「成人式までが冬物衣料の販売期だが、前年同月に比べ気温が高いことから主力衣料の販売数が大幅に低下し、苦戦している。しかし、今月中旬以降の全国的な気温低下により、防寒具が好調に動き、改善してきている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
百貨店	8.3	7.7	8.0	4.1
スーパー	0.0	3.1	1.2	1.7
家電卸出荷額	1.2	1.8	8.9	3.0
乗用車	14.4	2.0	15.7	3.9
景気ウォッチャー	43.8	36.8	59.5	51.4

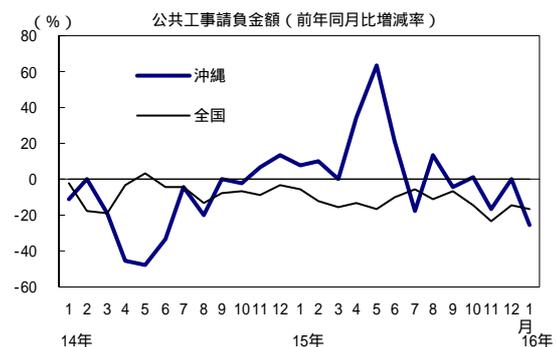
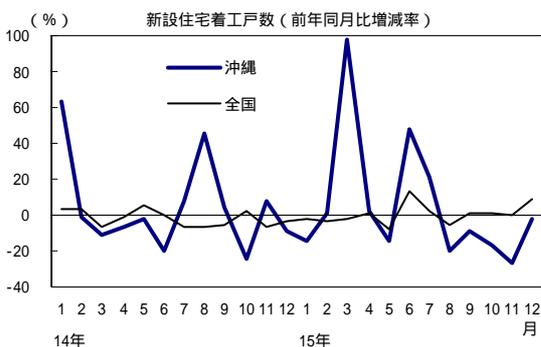
- (備考) 1. 百貨店販売額、家電卸出荷額は沖縄銀行調べ。
2. スーパー売上高は日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。
3. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家はおおむね横ばいであったものの、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年とほぼ同水準になっている。

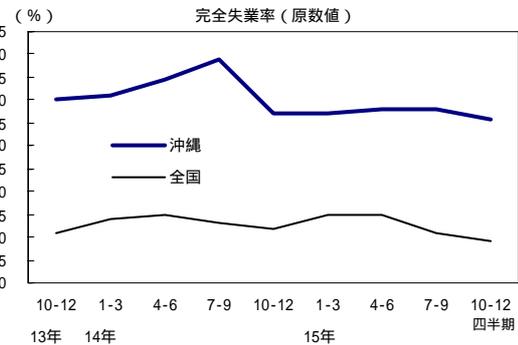
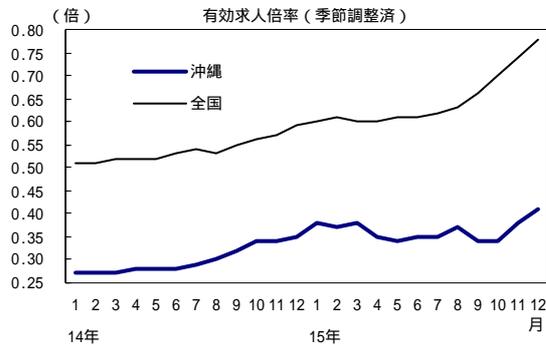


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況の中、改善の動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準である。



(備考) 沖縄県企画開発部統計課「労働力調査」により作成。

景気ウォッチャー調査 (1月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「雇用形態の多様化により新卒採用の減少傾向が続いている。したがって昨年より前年同月比で15%ほど学生の就職率が低下している(学校[大学])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	16年1月
倒産件数	26	34	35	24	7
(前年比)	7.1	30.8	6.1	7.7	30.0
負債総額	207	121	173	43	5
(前年比)	191.6	117.9	138.2	49.9	74.7



景気ウォッチャー調査 (1月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

・沖縄県全体の景気は観光客の影響で良くなっているようだが、商店街では一向に良くなる気配がない。郊外大型ショッピングセンターの店舗に関しては好調だが、商店街の店舗に関しては相変わらず厳しいというのが現状である(一般小売店[鞆・袋物])。

<先行き>

・鳥インフルエンザ等による近場の海外旅行の不振はしばらく続き、県内景気も旅行社業界からみると若干まだら模様に移して行く(旅行代理店)。

